



# 抹茶ミルク号

第191号

発行日：令和元年12月1日

発行者：医療法人 博愛会 福田脳神経外科病院

院内情報委員会 (☎0952-29-2223)

## 診察室から ～てんかん（I）～

理事長 福田 雄高

思ったよりも罹患している人の割合が多いも、認知度が低い病気に“てんかん”があります。てんかんは脳の病気です。脳はわずかな電気の流れにより情報伝達を行っていますが、何らかのきっかけで、脳の神経細胞が異常に興奮し、過剰な電気を放つことがあります。脳の一部が異常に興奮して発症する焦点発作（部分発作）と、脳全体が一気に興奮する全般発作に分けられます。成人に多く発症するのは症状を伴う焦点発作で、全般発作は子どものうちに発症することが多いです。

てんかんというと、突然白目をむいて全身をけいれんさせる状態を思い浮かべるかもしれませんが、実はその症状は多彩です。

最近とくに増えているのは、65歳以上で発症する高齢者てんかんです。脳出血や脳梗塞等の病気の他、頭部外傷、脳腫瘍、アルツハイマー病などが原因で発症し、隠れ脳梗塞が原因となっていることもあります。典型的な症状は、動作が止まってぼんやりする、口をもぐもぐさせる、何度も同じ言葉をくりかえす、などです。認知症の症状と似ており、認知症と間違われることもあります。

実はてんかんは珍しい病気ではなく、  
およそ100人に1人がかかる病気です。

日本全国に100万人以上の患者さんがいる  
とされています。 (次号に続く)



ブラジル サントス市の浜辺。  
波風ない穏やかな海を眺めて  
いたいものです。



# ミニーマウス号



第193号

発行日：令和二年2月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院

院内情報委員会

## 診察室から ～てんかん（Ⅱ）～

理事長 福田 雄高

※広報誌12月号 てんかん(I)の続きです。

てんかんの診断としては、病歴に加え、脳波検査、及び頭部MRI検査が重要な検査になります。てんかん発作に見られる異常脳波を検出すること、また頭部MRIにより脳の異常な構造がないかを調べます。更にてんかんが疑わしい場合は、てんかん専門医に紹介し、長時間ビデオ脳波モニタリングなどによる、より正確な診断の確定、治療薬が適切か判断することも非常に重要です。

診断されたら、まずは服薬治療が重要です。正しい診断を受け、適切な治療を受ければ、多くの場合、発作を抑えることができます。内服するも効果が得られない難治性てんかんの場合は外科治療を考慮する場合があります。

☆てんかん 日常生活で気をつけたいこと

- ① 規則正しい生活をする。睡眠不足、過労、ストレスは大敵。
- ② 発作の誘因となるような刺激を避けること。過度のアルコール摂取、チカチカする強い光、大きな音、ざわざわと騒がしい環境などは、発作を誘発することがあります。
- ③ できるだけ一人にならないこと。

本人には自覚症状がなく、家族から指摘されてはじめてわかることも多いです。家族の誰かが、あれ？なんかこれって・・・てんかんっぽいかもと気になった際はまず気軽に相談頂ければと考えます。



北堀の夕暮れ